



荒川区西日暮里2-55-1
国鉄労組東京地方本部
発行責任者 鎌田博一
編集責任者 常盤達雄

No.1745

2012年
4月5日

春闘標語

雇用を守り豊かな生活
働くものの団結で
仲間と勝ち取る12春闘

国勞東京審判団
講習会

三月三日、東京地本と国勞東京審判団
は第一八回国勞東京・神奈川県野球協会合
同審判技術講習会を、県立神奈川工業高校
グラウンドで開催した。県立神奈川工業高
校の野球部の皆さんに協力をいただき、実
戦的な講習を行った。アウト・セーフやス
トライク等のジェスチャーの基本練習、ス
トライクゾーンの説明など行われたが、「ヒ
ズアウ」という声で飛んでいた。篠原指
導員に聞いたところ、「He is ou
t」のことだそうで、海外に出る人が多く
なった現在、それを見越し、メジャーに日
本のアマチュア野球も合わせてきているそ

原発いらない! 福島集会



加藤登紀子さんのオープニング・コン
サートで開幕した「原発いらない! 三・
一 福島県民大集会」。会場には、地元福
島県はもとより、国勞東京からの参加者
はじめ、全国各地からの一万六千人の参加
者が集まった。

「原発いらない!」は、福島県民の痛恨の叫
びだ」と、清水さん(福島大学副学長)が
呼びかけ人を代表して挨拶。続いて連帯の
あいさつに立った大江健三郎さんは「原発
を無くすこと。それは、原発を廃止すれば
できることだ」と熱いメッセージを送った。

貨物分会 交流会開催

東京地方本部は三月三日に大崎の南部労
政会館において貨物分会交流会を開催した。
稲荷副委員長からは主催者あいさつで組
織拡大や一二春闘など重要課題に取り組み
発言があり、関東貨物協賛藤議長、地本松
川書記長、東京貨物協賛戸事務長からさま
ざまなあいさつや提起がされた。続いて全
貨協笠井事務長から「貨物をめぐる状況と
中期経営計画「飛躍」及び二〇一二春闘情
勢」について講演があった。

「原発のせいで、自分の畑にさえ足を運
べない。耕したくても耕せない」、「九月に
なれば漁業ができると思ったけど、市場は
あの日のまま。早く美味しい魚を全国に届
けたい」、「九か所の避難所を転々とし、今
仮設住宅にいます。地震は止められないが、
原発は止められる」と、県民が次々に切実
な思いを訴えた。富岡の高校から転校を余
儀なくされた女子校生は「いろいろなイベ
ントに招待されるたびに、被災者である事
実が突き付けられた。『頑張れ』という言
葉が嫌いだ」と、辛い胸の内を語った。
集会は、「福島県の犠牲を断じて無駄にし
ないためにも、原発はいらない、の声を大
きく挙げよう」と集会宣言を採択したの
ち、市内をデモ行進し脱原発を訴えた。

本年度全体で約四〇〇日。要員は定数より
一八人プラス。波動要員を超えた臨時列車
が原因。ある組合員は一二月に特休四日買
い上げで超勤が多く、一月の賃金が冬の
一時金より多くなった。「若い人はカネ目当
ての出勤も」。「会社は、今は異常時。協力
してくれ、だけ」。「年休が入らないので勤
務変更してもらおう。結果、三テ・四テ当
り前」。「車両所では嘱託社員が多く、特休
日が多い。嘱託社員だけ休みの日は作業工
程が組めない」。「新入社員がゼロ。五年後、
一〇年後を見て人事をしてほしい」など
様々な意見が出された。「組合員が多くな
れば、全貨協が本社と、関東貨物協が支社
と交渉する力になる。組織拡大を」との松
川書記長の言葉で締めくくった。



歓迎

続く国勞加入

鎌倉駅分会

立川車掌区分会

3/17 3/14

第101回地方委員会 書記長集約

組織の強化拡大。ほぼ全員の委員から触
れていた。大会以降神奈川で三名の
拡大。拡大の共通点は職場に対する不満
と、暖かい国勞組合員の労働者魂。復帰の
仲間からは「もう一度一緒に頑張りたい、
最後は国勞で」と言う言葉。その気持ちに
応えて次なる仲間を迎え入れる取り組みに
全力を。課題は新入社員対策。昨年は神奈
川地区本部で新入社員が加入。これまでも
運動の活性化という観点では大きな成果を
得ているが、最終的な加入という成果に結
びつけるような取り組みを。仲間を守って
二四年間闘い続けてきたこの力を全てつぎ
込んで組織拡大に全力を。

労働条件改善の取り組み。工務職場にお
ける見張り、待避遅延の問題についても会
社と団体交渉の中で様々な議論をしてきた。
安全・仕事総点検運動を提起。単に支社に
おける団体交渉で整理を図る、ではなくて、
職場で議論し、労働条件の問題などについ
て現場長に見解を求め、意見を交換する、
その上に交渉。春闘のなかでも議論してい



五月の東日本本部の野球大会さらに夏
の地本大会の準備が整った。熱戦が今から
待たれる。

ただ、五月末までに要求集約して交渉
体制を確立。会社の施策実施状況を見ると、
提案から実施までの期間が非常に短い。有
意義な議論ができない、議論をした上で要
求を確立する時間が無い。昨年のメンテナ
ンス改善のときも、今年のダイ改も提案が
非常に遅い。改善を強く求めていく。

一二春闘の闘い。ベースアップは論外と
いうように切り捨てられている部分であ
る。非常に厳しい環境である。実態アンケ
ートの集約をお配りしているが、様々な意
見をいただいた。JR東日本本社に申し入
れをしている。JR貨物会社についても賃
金要求と合わせた労働条件改善要求につい
て申し入れを行っている。安全・仕事総点
検とラップさせながら取り組んでいくこと
を提起している。

災害対策、反原発。JRの地震対策など
について会社に対して引き続き安全・仕事
総点検運動などを通して求める。もう一点
は原発。エネルギー施策の転換を図れるよ
うな様々な取組みがあらゆるところで取り
組まれているので、地方本部も連帯をした
取り組みを進める。三・一一の福島の県民
集会に全力をあげ、更に三・二四の日比谷
集会もある。地方本部としてはここには全
力をあげて、皆がこの集会に行ったらと言
えるように取り組みたい。

第101回 地方委員会 発言録

丸山 淳一(自動車・中央道統括支店)

休日出勤、年休の抑制、長時間労働、腰痛など様々な問題。休む、無理をしないなど当たり前の要求を続けてきた。JRバス関東にはJR東の出向社員、JRバス関東の社員A、B、プロパー社員、子会社のバスケット社員。賃金体系に格差をつけない運動の取り組みを常々考えてきたが、会社は変更しようとしていない。組織人員は急速に減少。その中で、宇都宮支店一名の復帰。若い社員は国労を知らない世代が。アピールしていく必要が。他労組の仲間から、労働条件を改善できる仲間は国労しかないなどの共感を結び付けてきた成果。

宮下 富昭(大井工・部品科)

新採者と積極的に対話。一昨年は新人歓迎会を行なった。昨年は震災の影響で、一月下旬に開催。組織拡大には中々繋がりにくいが、やはり趣味での繋がりがりや若手の悩みなど日常的な交流が重要。引き続きレクや飲み会などを設定し、分会と支部が連携していく。エルダー制度。来月退職の組合員。体力が無く足腰も弱いため軽作業希望。何回か面談を行なったが、提示は東京駅清掃。診断書を提出したが、変更されない。本人も不安。引き続き私も現場の科長や、総務科長にお願いをしていく。今後もエルダー社員が増える。本人の希望を調査しながら進めて行くことが求められている。



菊島 高徳(神奈川・横浜通信技セ)

組織拡大について。できることは精一杯やる。執行委員会等行なっているか、掲示板は新しいものを貼ってあるか等、一つひとつの積み重ね。分会ではバーベキューを開催。麻雀やゴルフ、飲み会等、お互いが得意の分野を持ち寄り交流。新人事賃金制度。人材の育成、技術継承に重要な管理者に職責を見合った処遇を図るとしている。しかし、お互いが助け合い仕事をしている

中で、管理者は我々の前には出てこない。上位職でなければ賃金は上がらず、若手は管理職を目標にせざるを得ない。団結の低下が心配。労働組合不要論。

も危険である事実を宣伝し、撤廃に向けた運動を。

古沢 真一(新橋・東京駅)

大量退職の受け皿のための駅の業務委託と、子会社のプロパー社員の導入。高齢者の働く場としてふさわしくないとの声。新しい職場で働くことを断念する先輩も。また、「あなたはここ」と一方的な斡旋。労働条件は改善されていない。東京駅分会ではエルダー班を作り運動を展開しているが、所属分会の違いで全組合員が集結することが難しい。プロパー社員が委託会社に配属に。GSもほぼ全員がJR東労組。彼らは5年間で職場の中心的な立場に。その人達がプロパーになれば我々国労組織は戻つて来。プロパーの国労への組織化も視野に。

堀内 明彦(八王子・立川運転区)

乗務員の不規則な勤務で顔を合わせる機会が少ない。職場点検ノートを設け、何でも気付いた点を書けるように。現場管理者に提出。ダイ改の団交の場でも生の要求をぶつけた。最近、制限呼称及び制限速度の理解度確認。その時間を国労組合員の指摘により五分間ではあるが超動に。組織強化により五分間ではあるが超動に。組織強化拡大について。趣味、飲み会等を通じて何とか拡大に繋がるよう、我々も接点を絶やさぬように取り組んでいる。JR東労組に対して不満を持つ若手がいることも事実。運転職場は難しいと言われているが、容易な職場など無い。目に見える国労の労働運動を行なうことが拡大に繋がっていく。

乗務員の不規則な勤務で顔を合わせる機会が少ない。職場点検ノートを設け、何でも気付いた点を書けるように。現場管理者に提出。ダイ改の団交の場でも生の要求をぶつけた。最近、制限呼称及び制限速度の理解度確認。その時間を国労組合員の指摘により五分間ではあるが超動に。組織強化により五分間ではあるが超動に。組織強化拡大について。趣味、飲み会等を通じて何とか拡大に繋がるよう、我々も接点を絶やさぬように取り組んでいる。JR東労組に対して不満を持つ若手がいることも事実。運転職場は難しいと言われているが、容易な職場など無い。目に見える国労の労働運動を行なうことが拡大に繋がっていく。

湊 信蔵(神奈川・真鶴駅)

神奈川地区本部では組対会議や新規採用者の国労説明会の日程をあらかじめ決めて、万全の体制を構築。昨年、新規採用者の拡大を皮切りに今年に入り一名を拡大。踏み出せないと克服することが重要。契約社員が五年目。二月に雇止め問題学習会。弁護士から、民間の雇止めへの勝利に向けた闘いの講演。直接JRの雇用を求める闘いが求められている。平和と民主主義について。日本政府を核廃絶の先頭に立たせることが、日本の運動に求められている。横須賀の原子力空母が事故を起こせば広範囲で人が住めなくなる。原発より

武田 英雄(八王子・八王子保技セ)

設備メンテナンス合理化から十年。連日事故報告。協力会社への業務と安全の丸投げ。技術継承を考えると、拜島派出が出来たが要員不足で慢性的な超動。事故の度に増える書類や調査。出向職場はプロパーの補充をほとんどせず、技術力の低下。連日働く協力会社社員。実態調査や改善に向けた関連会社に対する申し入れを。一二春闘。労働者の四人に一人はワーキングプア。生活保護に人々が押し寄せている。大企業の国際競争力強化と財政再建が優先課題とされ、財界はベアは論外、定昇を見直すと。しかし大企業は内部留保を増やし金余り。内部留保を賃上げと安定した雇用、景気回復に。

青木 久(大宮・大宮保技セ)

メンテナンステ体制の見直し。エリアの細分化で要員も細分化。毎日人の貸し借り。今後確実に増える超動を調査し要求をまとめる。見張り一人で線路内に入れない箇所は点検が出来ない。会社は見張りを増員して巡視と言っているが、ギリギリの要員で現実には厳しい。働く我々の安全は当たり前。線路の安全も当然。しかし現在の要員では二つの安全が相反する。今の若手はマイプロ、CS、競技会、業務研究などの課題を持たされ、パソコンが業務の中心。保線の実務は死んでいる訓練専用の線路で実習。活きた線路での仕事は年に数回。



車塚 豊(上野・北赤羽駅)

大震災から一年。JR東日本は利益より地域の基盤として大きく問われている。放射能汚染でホットスポットも多数。上野支部ではJR東日本に対して線量測定や除染を求めている。脱原発、自然エネルギーへの転換への運動に参加も重要。契約社員の雇止めが現実。環境アクセスに五〇名弱の採用があったと聞く。上野支部でもプロパー社員への組織拡大を意思統一。駅で働く清掃部門の社員もいる。ほとんどが半年更新の契約社員。清掃社員の意見に耳を傾けて事業所に申し入れを行なった。国労への期待と信頼。国労への加入を相談されて、一月一日付けで加入してもらった。

間下 則夫(八王子・上野原駅)

震災以降職場ではエコという節約が横行。節電、節水、職場の事務用品まで。管理者曰く、震災以降予算が下りてこない。我々の頭の中まで節約の二文字が浸透。職場ではCS、サービス、マイプロなどの会議が毎月。競争が激化。労働運動が入る余地が無くなる。こうした厳しい条件下でも組織強化拡大に向け分会、組合員が踏み出していかなくては。国労の歴史は働くものの立場からの運動を追求し、信頼を得てきた。支部などで交流する中、ある仲間は飲み会に誘ったり、気の合う人達と釣り、ボーリングといったことで若い仲間の気持ちを掴もうと努力をしている。積み重ねが大事。

「がん」の保障 《生きるためのがん保険Days(デイズ)》

スタンダードプラン 入院給付金日額 10,000円の場合

初めて診断確定されたとき	診断給付金	がんの場合 100万円 上皮内新生物の場合 10万円
入院したとき	入院給付金	1日につき 10,000円
通院したとき	通院給付金	1日につき 10,000円
手術したとき	手術治療給付金	1回につき 20万円
放射線治療を受けたとき	放射線治療給付金	1回につき 20万円
抗がん剤治療を受けたとき (上皮内新生物は対象外)	抗がん剤治療給付金	抗がん剤治療を受けた月ごとに 1ヵ月 10万円 乳がん・前立腺がんのホルモン療法の場合 (すべての保険期間を通算600万円まで) 1ヵ月 5万円

プレミアムサポート 訪問面談サービスと専門医紹介 (このサービスは、株式会社法研が提供するサービスです)

【引受保険会社】 アフラック東京第三法人営業部
〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
当社保険に関するお問い合わせ：各種お手続き

【募集代理店】 アベニール株式会社
〒105-0004 東京都港区新橋5-15-5 交通ビル3F

コールセンター 0120-5555-95

電話 03-3437-6810 ファックス 03-3437-6822

【取りまとめ先】 アベニール株式会社 東京営業所
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-55-1 国労東京地方本部内

JR電話 054-2548 ファックス 03-3806-9275
電話 03-3806-9264

◎詳しくは、パンフレット(契約概要)をご覧ください。 AF007-2011-0186 4月25日

「生きる」を創る。Aflac

◆月払保険料(団体取扱) (2011年4月1日現在)

生きるためのがん保険Days(デイズ)スタンダードプラン
入院給付金日額10,000円 定額タイプ
保険料払込期間：終身(抗がん剤治療特約は10年更新)

	35歳	45歳	55歳	65歳
男性	3,656円	5,608円	9,360円	15,190円
女性	3,734円	5,274円	6,864円	9,048円

〈抗がん剤治療特約〉の更新後の保険料は更新時の年齢・保険料率によって決まります。